

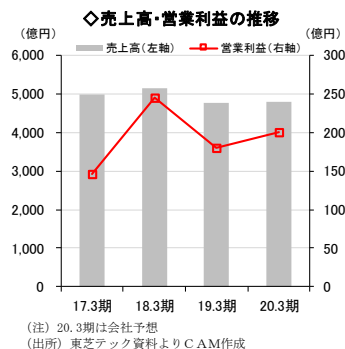
# 企業ニュース 東芝テック

(東証1部 : 6588) <http://www.toshibatec.co.jp/>

作成者: 村上大志

## 国内POS販売台数でシェアNo. 1

1950年、企業再建整備法により東京芝浦電気[現在の東芝(6502)]から分離独立し設立された。国内外でリテール(小売)向けPOSシステムの開発から製造、販売、保守サービスまで一貫して手掛けている。また、複合機の販売などのプリンティングソリューション事業も展開している。当社の強みは全国約130カ所のサービスネットワークを有し、地域に密着したきめ細かいソリューションを提供できる点で、国内POS販売台数のシェアNo. 1の地位を確立している。19.3期の事業別売上高構成比はリテールソリューション61%、プリンティングソリューション39%。中期経営計画では、決済やデータサービスなどの新規ソリューション事業の売上拡大に注力し、21.3期の売上高5,300億円、営業利益265億円、営業利益率5.0%を目指す。



## セミセルフレジの販売が好調

19.3期の連結業績は、売上高が4,768億円、前期比7%減、営業利益が180億円、同27%減。リテールソリューション事業の売上高は2,922億円、同10%減、営業利益は123億円、同29%減。国内POSシステムは人手不足を背景にセミセルフレジの販売が好調だったが、前年の大口案件のはく落で減収となった。海外は欧州では減収となったが、米州で高付加価値商品の販売が拡大し為替影響を除けば前年並みを維持した。プリンティングソリューション事業の売上高1,846億円、同2%減、営業利益は57億円、同22%減。海外市場向け複合機の販売が低調だった。

20.3期の会社計画は、売上高が4,800億円、前期比1%増、営業利益が200億円、同11%増。人手不足の深刻化や小売業における人件費の高騰でセルフレジのニーズが高まっている。当社のセミセルフレジは販売台数、導入店舗ともに大幅に増加しており、事業環境は良好である。キャッシュレス関連ビジネスでは、多様化するキャッシュレス決済の導入ニーズに対してスピーディーに提供できる体制を構築している。決済量に応じたフィービジネスの確立で安定的な収益基盤の形成に期待できよう。

## [株価動向・投資判断]

キャッシュレス化が推進される中、機械からシステムまで一貫して提供できる当社へのニーズは高まることが予想され、業績拡大が期待できよう。

<6588 東芝テック 業績:日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
18.3	513,289 ( 3)	24,546 ( 68)	22,768 ( 82)	17,512 ( 126)	63.7	8.00
19.3	476,824 ( ▲7)	17,989 ( ▲27)	16,471 ( ▲28)	11,211 ( ▲36)	204.0	34.00
20.3 予	480,000 ( 1)	20,000 ( 11)	18,000 ( 9)	12,000 ( 7)	218.4	60.00

(注)18年10月1日付で普通株式5株につき1株の割合で株式併合を実施。

19.3期の1株配当34円は、株式併合前の第2四半期末4円と株式併合後の30円を単純合算で表示。



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2019/7/8)	3,190 円
年初来高値 (高値日)	3,400 円 (19/4/9)
同 安値 (安値日)	2,430 円 (19/1/4)
予想 P E R (20.3 予)	14.6 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	1,653.9 円
P B R	1.93 倍
予想配当利回り	1.88 %
(1株当たり配当金年60.00円)	
R O E (19.3)	12.9 %
発行済み株式数	5,763 万株